

令和2年度 串間市立市木小学校「学校関係者評価書」

評価の基準	「4」期待以上	「3」ほぼ期待通り	「2」やや期待を下回る	「1」改善を要する
-------	---------	-----------	-------------	-----------

学校の教育目標	自信に満ち 豊かな心をもって たくましく生きる子どもの育成
---------	-------------------------------

本年度の重点目標	○ 生きる力を育む確かな学力の育成 【知：共に学び伝え合う喜び】
----------	----------------------------------

評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自校評価	外部評価	学校関係者評価委員コメント
生きる力を育む確かな学力の育成	■楽しく、分かりやすい授業づくり ・楽しい授業	1	概ね「3」の評価 ○ 心のアンケート等では「学校が楽しい」と回答した児童がほとんどである。楽しく学習に参加している状況については、児童・保護者・教師ともに肯定的な回答である。児童の実態や能力に応じて、めあての設定や問題提示等を工夫したり、実生活に関連するような授業構成を行ったりすることで、主体的に学習に取り組めるような工夫を行っていききたい。保護者への調査でも94%の方が楽しく授業に参加していると回答されている。	3	4	○ 「学校が楽しい」との回答が多かったのは称賛したい。日々の授業の中で、学習のめあてなど明確な設定のもとに進められている様子が伺える。学校全体が落ち着いている様子、その中で子ども達が真剣に取り組む態度が良い。理解度が高まり学力向上にも繋がってくる。「意欲をもって学習に臨む」気持ちは指導者と児童、保護者が一体となって進んでいる成果である。児童一人一人が「わかる・できる」を実感できる授業にさらに磨きをかけてほしい。 コロナ禍で行事中止が多い中、それでも明るく登校し、のびやかに成長している様子が伺える。
		2	概ね「3」の評価 ○ 学校では「主体的・対話的で深い学びができる児童の育成」を研究主題として日々の授業改善や授業研究に取り組んでいる。加えて、全国学習状況調査やみやざき学習状況調査、串間市学力テストの問題分析を行って、授業改善に生かしている。また、めあてやまとめを意識した授業構成や発音の工夫等を行っている。その結果として、児童・保護者ともに高い評価である。今後は、コロナ禍に対応した話し合い活動を進めていくことで、深い学びにつながるよう努めていきたい。			
	3	概ね「3」の評価 ○ 児童・保護者ともに高い評価であるが、教師としては、最後まで話を聞いている場面とそうでない場面の差があると評価している。今後は、相手の方を向いて、「最後までしっかり聞く」「自分の考えと比較しながら聞く」といった指導も必要である。				
	4	概ね「3」の評価 ○ 児童70%、保護者76%が肯定的な評価となっているが、考えや思いをしっかり伝えるための指導をしていく必要がある。今後は、スピーチ指導や単元末における発表の場の設定等を行ったり、話し合いの場を工夫したりすることで、考えを伝えられるようにしたい。さらに、お互いを認め合う雰囲気づくりを通して、個々の実態に応じた表現力の向上を図りたい。				
	5	概ね「4」の評価 ○ 保護者の肯定的評価は97%と良好である。児童も、学期末の漢字コンテストやまとめテストに向けて、日々努力することが、漢字力・計算力の向上につながることを実感している。今後は、スキルタイムの計画的・効果的な活用と共に、児童自身が意欲的に取り組めるような手立て（小テストの実施等）を通して、確実な定着へとつなげていきたい。また、コロナ禍におけるICT機器の活用方法も考えていきたい。				
	6	概ね「3」の評価 ○ 肯定的評価が、児童77%、保護者56%で、昨年度よりも少し低い評価となっている。教師の肯定的評価は50%であるので、低い評価となっている。読書に関しては、読書量においても、個人差が大きいようである。学校としては、学校司書とも連携し、読書の大切さ等も伝えながら、様々なジャンルの本への興味をもたせることや、国語の授業における読書指導を行いたい。さらに、保護者と連携して、家読への取組を支援していきたい。				
	7	概ね「3」の評価 ○ 保護者の評価は85%と高い評価であるが、児童は72%、教師は75%である。家庭や児童によって、家庭学習の取組に違いがあるようである。今後は、学級懇談等を通して、串間市の家庭学習の手引きを紹介し、十分に活用していくことで、質の高い家庭学習をめざしていきたい。また、メディアコントロールの推進等により、家庭学習の意識啓発を行いたい。				
	■基本的な学習態度や望ましい学習習慣の形成 ・聞く姿勢や態度					○ 基本的な学習習慣の定着を図り授業でどれだけ集中して取り組んでいるかが重要である。その点では、聞く力は生きていく上で大切なことなので、弱いと感じられる部分の強化をお願いしたい。
	・考えを伝える力					○ 話す力・自分の考えや思いを伝える力・相手を認めコミュニケーション能力を高めることは、生きていく上で大切なことなので、個々の意見を積極的に発表させる等、今後も力を付けていただきたい。
	・漢字力、計算力					○ 漢字力・計算力の向上につながる漢字コンテストやまとめテスト小テスト等の実践により効果が上がっているようなので、今後も継続してほしい。
	・読書の習慣（家読）					○ 読書の習慣は幼児期からが大切であり、家庭で保護者の読み聞かせにより、聴きながら色々な思いを抱くことができる。また文章を読み取る力を付けさせることにもなる。心の教育として必要な分野でもあるので、習慣化できるとよい。
	・家庭学習					○ 家庭学習の習慣化は学力向上につながり大切なことである。家庭内で「勉強することが楽しい」と思うような雰囲気づくりに努めてほしい。

本年度の重点目標		○ 命を大切にし、豊かな心を育む教育の推進		【 徳：生命を尊重し思いやる喜び 】		
評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自己評価	外部評定	学校関係者評価委員コメント
命を大切にし豊かな心を育む教育の推進	■基本的な生活習慣の確立 ・挨拶の習慣 ・学校の生活のきまり ・手伝いや清掃(協力)	8	概ね「3」の評価 ○ 児童や保護者の90%は、よく挨拶をしていると評価している。しかし、教師の評価や保護者のコメント欄にも、挨拶が十分でない面があると書かれている。登下校時や地域等の日常生活の中では、まだまだ十分でない面があると判断できる。今後は、挨拶をすることで相手の存在を認めたり、コミュニケーションを図ったりすることを指導しながら、どのような場面でも児童が進んで挨拶ができるようにしていきたい。	3	3	○ 朝の登校時に児童が元気よく挨拶してくれて気持ちのよい一日のスタートになる。なぜ挨拶をしなくてはいけないのかという意義を理解させることは、なかなか難しい。大人になってより大切になってくることだと捉える姿勢が必要なので、大きな声で質の良い挨拶を今後も期待している。 ○ みんなが気持ちよく学校生活を送るためにはルールを守ることを大切にしなければいけない。きまりごとはなぜ必要か、なぜ守らなければならないのか等、進んできまりを守ろうとする心を育てる指導をお願いしたい。
		9	概ね「3」の評価 ○ 学校全体や各学級で、機会あるごとに継続的・具体的な指導を行っており、大きな問題行動等は発生していない。保護者の評価も88%評価している。しかしながら、学校のきまりを守っていない面もある。きまりを守ることは、公共のルールや公德心の育成及び信頼関係の構築につながっていく面もあるので、繰り返し指導を行うことで、規範意識をもって行動できるようにしていきたい。タイミングを逃さない指導を実践していきたい。			
		10	概ね「3」の評価 ○ 家庭での手伝いや清掃に関しては、保護者の評価は82%である。児童や職員の評価も高いので、概ね清掃等における取組は評価できるものである。学校においては、縦割り清掃やボランティア活動などを通してみんなで協力することで生まれる一体感や、誰かの役に立つことで得られる自己存在感を味わわせるようにしている結果である。今後は、家庭での取組も含めて、児童が率先して行動する態度を育成していきたい。			
	11	概ね「3」の評価 ○ 児童、保護者、職員のアンケートでは言葉遣いの大きな乱れは見られない。ただし、学校での児童のアンケート等の結果では、登下校時や休み時間、休日など大人がいない場面では、言葉が乱れることがある。今後は、相手を意識した言葉遣いについて指導していきたい。また、発達段階に応じて、正しい言葉を意識させる指導を継続的に行っていくいきたい。				
	12	概ね「4」の評価 ○ 保護者の回答では、94%が肯定的な回答であり、児童の回答・職員の回答でも、90%以上が肯定的である。また、児童の様子からも、児童一人一人がお互いを認めている。ちょっとしたトラブルがあっても、すぐに解決できるので、児童同士が良好な関係であるといえる。今後は、人権教育・道徳教育の充実も図りながら、良好な人間関係が築けるようにしたい。				
命を大切にし豊かな心を育む教育の推進	■学級の望ましい人間関係 と 思いやりの心の醸成 ・言葉遣い ・人間関係①(人権尊重) ・人間関係②(相互協力)	13	概ね「4」の評価 ○ 児童・保護者・職員のアンケートでは、90%以上が肯定的であり、ほとんどの児童に協力し合う態度が身に付いている。本校は、小規模校であり、児童がお互いをよく知っているため困っている友達には自然と手を差し伸べている。今後も、相手を意識した行動や思いやりのある言動ができるように指導していきたい。			○ 登下校の様子は、上級生が下級生の面倒をよくみていて、率先して向上心をもって誘導している。学校が指導したことに對して児童は早期に対応しており、下級生は上級生を信頼して楽しく学校生活を送っているようだ。 いじめや不登校の早期発見に努めていただき、問題が発生した時に、職員間での共通理解を図り、早期解決に向けた対応を望む。 ○ 一人一人の個性を尊重することは大事なことであり、よりよい人間関係を築くには一言一言を大切にしたり、相手の長所を見つかったり認め合ったりすることが大切である。言葉による影響は大きいので、人権教育、道徳教育の充実にも期待したい。

評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント	自己評価	外部評価	学校関係者評価委員コメント
健やかな体の育成と安全教育の充実	■整理整頓 ・整理整頓	14 15	概ね「2」の評価 ○ 児童自身はある程度整理整頓ができていると回答しているが、保護者の肯定的な評価は38%と低い。職員の回答は肯定的回答が多い。このことから、児童の整理整頓の能力は十分でないことがうかがえる。整理整頓に関しては、学校や家庭で連携した取組が必要であるので、今後も学級懇談や学級通信等で継続した取組が必要である。整理整頓ができることで、忘れ物等の減少にもつながるはずである。	3	3	○ 整理整頓は家庭教育という概念が強い。しかし、生活時間の大部分を過ごす学校で指導していただくことで力をつけることに有効である。義務教育の初期段階では、生活習慣も「学習」と捉えていただき、子ども達の「もの」や「生活」に対する自己自立心を培ってもらいたい。 ○ 幼児期の成長において外に出て様々な世界を見て、触れて・感じる教育は大きな効果をもたらす。気分転換にも繋がる。コロナ禍の影響で、色々と制約があったと思う。体力向上の取組や体力テストは実施できない状況もあった。これは仕方ない。今後の課題として体力向上に取り組んでいただきたい。 ○ 望ましい生活習慣の確立は、保護者の意識によって変化できるので、生活リズムの乱れによる影響を具体例として挙げ、協力を求めていくとよいのではないかと。朝ご飯についても意識向上が必要である。 ○ 自分の命を守る行動ができるよう正しい知識を身に付け実践できるようになっていると思う。しかし、登下校の「悪ふざけ」は非常に危険であるので徹底した指導をお願いしたい。 ○ 1、2学期前半は、忘れ物を取りに帰る様子が見られた。後半は少なくなった。また、児童同士で持ち物の確認もしている。
	■基礎体力の向上 ・外遊びと運動		概ね「3」の評価 ○ 昼休みなどは、学年を越えて仲良く元気に外遊びをしている状況にある。ただ、本年度はコロナ禍の影響で、体力向上の取組（鉄人サーキット・わくわく運動等）を実績で来な状況であった。また、体力テストも実施できない等もあり、運動に関しても十分とは言えなかった。持久走等に対しても、児童の運動意欲も高いので、今後、個々の体力向上につながっていくような対策を考えていきたい。			
	■健康な生活習慣の確立 ・望ましい生活習慣(リズム)の形成	16	概ね「3」の評価 ○ 児童の「早寝・早起き・朝ごはん」への意識は87%と高く保護者も88%が肯定的に評価している。しかしながら、個人での取組には差があり、十分とは言えない。特に寝る時間等に関しては、生活リズムが乱れることがあり、授業に支障が出る可能性もある。今後は、元気アップ週間等を通して家庭との連携をさらに強めていきたい。			
	■安全教育の推進 ・安全意識	17	概ね「3」の評価 ○ 保護者の肯定的な評価が94%であり、児童が交通事故等に遭うといった状況は発生していない。しかしながら、登下校や時には、走ったり、ふざけたりしながら登下校している事案があり、安全とは言えない。登校班会や全校朝会等を通して、安全指導を徹底した。また災害（地震、火災等）や不審者と遭遇した場合の対応についても、警察や地元消防団等の協力を得て具体的な指導を実施しており、今後も計画的・継続的に危険予知能力や危機回避能力の育成にも力を入れていきたい。			

本年度の重点目標		○ 地域に開かれ信頼される学校の実現 【 連：人の役に立ち繋がり合う喜び 】		自己評価	外部評定	学校関係者評価委員コメント
評価項目	評価指標	設問番号	学校の自己評価コメント			
地域に開かれ信頼される学校の実現	■家庭・地域社会との連携 ・学校と家庭との連絡	18	概ね「3」の評価 ○ ほとんどの児童が、学校からの配布物等を家庭に届けていると回答しているが、保護者の回答では88%と100%ではない状況であることから、持って帰ってはいるが保護者まで確実に届いていないという状況が考えられる。学校からの配布物の中には、重要な内容の物もあるため、電話やお知らせメールにおけるPDF文書等を活用している。また、未提出の家庭には、担任が電話連絡等によって、直接的に家庭と連絡を取るなどの手立ても実践している。	3	4	○ 昔から子どもは親の鏡と言う。人として最初のモデルとなるのは身近にいる保護者である。学校からの発信も定期的にされ、ホームページにも掲載されており、その様子が伺える。
	・親子の会話	19	概ね「3」の評価 ○ 保護者の82%が、学校での様子をよく話していると回答しており、児童も87%が話していると回答している。家庭での会話を増やすことで、親子の絆を深めたり、児童の変化や学校の様子を理解したりできるようにしていきたい。また、ノーメディアデー等により、親子で話す時間を増やすなどに取り組んでほしい。学校としても児童が話したくなる工夫や話し方の指導を行ってほしい。			○ 親子間のコミュニケーションはよく行われているようで安心できる。対話することで、小さなサインに気が付いたり、学習意欲の向上に繋がったりする。会話が深いほど知的好奇心が育まれるという統計も出ており、日常の何気ないことや不思議だなと思うことを保護者も行ってほしい。今後も子どもの声を意識して聞いてあげてほしい。
	・地域との交流	20	概ね「3」の評価 ○ ほとんどの児童・保護者が積極的に地域の行事等に参加していると回答している。地域行事等に参加している児童や保護者の様子からも楽しく参加できていることがうかがえる。ただし本年度はコロナ禍のため、市木地区で行われる行事や串間市主催の行事等も中止となり、児童が行事に参加できる機会がほとんどなかった状況であった。学校としては、コロナ禍における新しい教育活動を視野に入れながら、行事への参加や地域人材の活用、地域の方々との交流の場や機会を考えていきたい。			○ 地域との交流活動は、児童が様々な年代・仕事・考え方・生き方を通して、職業観や勤労観を知る機会となる。今後、交流の方法を工夫して様々な体験ができるように願いたい。自分の将来に夢や希望をもてる児童の育成をお願いしたい。
	・学校からの情報発信	21	概ね「3」の評価 ○ 保護者の94%が学校からの情報発信が十分に行われていると回答をしている。主な情報発信として、毎月の学校便りや定期的な学級通信等の発行を行っている。特に学校便りについては、市木地区の回覧板で閲覧していただくことで、「地域学校」としての役割を果たしている。また、積極的なホームページの更新が実施できている。保護者に対しても、マチコミメールも積極的に活用し、迅速な情報発信にも努めている。今後は地域の方々との交流や情報収集にも力を入れていきたい。			○ 学校便り（回覧板で拝見）やホームページ等で情報を得ることができ、楽しみにしている。これからも継続していただきたい。今年には特にコロナ対応で変更することが多く、また突然にある場合も起こり得る。連絡が密であることは大切である。学校からの配付物が保護者に確実に届くように保護者からの声かけや点検など習慣づけてもらいたい。
・学校の対応	22	概ね「3」の評価 ○ 保護者の88%が肯定的に回答している。これまで、学校が児童や保護者の相談等に対して、迅速かつ適切な対応を行ってきた結果と判断できる。今後は、保護者のニーズにしっかりと答えられるような対応ができるように、学校組織を見直していきたい。さらに、地域の方々や要望等に対して、誠意ある対応を心がけていきたい。	○ 保護者との連携や相談など信頼関係が築けていれば、あらゆる問題にも対応でき、良い方向に向かうと思います。これからも誠意ある対応をお願いします。			